

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870105271
法人名	株式会社アクト企画
事業所名	グループホーム元気家
所在地	松山市福音寺町615-5
自己評価作成日	平成25年6月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 25年 7月 12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の思いを大切にして、家族と相談しながら、日々の生活を楽しくしてもらえるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設8年目を迎えた事業所で、地域の一員として地域での清掃活動や行事などに参加し、日常的に地域住民と交流している。利用者の重度化が進み、一人ひとりの気持ちに寄り添い、思いを大切にしながら穏やかに毎日が過ごせるように職員全員が取り組んでいる。周辺の事業所と勉強会や交流会での関わりが多く、課題の相談や情報交換を行うなど協力関係を築いている。開設当初からの職員もいるが新しい職員も多いため、管理者や勤務年数の長い職員は新しい職員の育成に力を入れ、明るい雰囲気とチームワークでケアを行い、サービス向上に繋がるように努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

Ⅰ.理念に基づく運営

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム元気家

(ユニット名) 太陽

記入者(管理者)

氏 名 八雲 美恵子

評価完了日 25 年 6 月 19 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 利用者一人一人の思いを大切に、地域との信頼関係を築いていくように努力している。	
			(外部評価) 会社が掲げる理念のほか、事業所独自の理念を職員全員で話し合い作成している。「利用者一人ひとりの思いを大切に利用者や地域住民、職員同士の信頼関係を構築していく」という理念を事業所内に掲示しており、職員全員で話し合いながら日々のケアに繋げている。また、毎月の職員会では、ユニット毎に話し合いを行い目標をたて、具体的なケアについて意識の統一を図っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 町内行事や地域清掃に参加したりして地域との交流をしている。	
			(外部評価) 地域の町内会に入っており、日頃から道路や公民館の清掃に職員と利用者が一緒に参加している。夏祭りや秋祭りなどの地域行事は利用者の楽しみの一つとなっている。事業所の周辺は住宅が多く、散歩時に地域住民と会話をしたり、野菜のおすそ分けをいただくなどふれあう機会は多く、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 民政委員や地域の人々からの相談には積極的に支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) ホームでの取り組みや状況報告をし、意見交換を行い サービス向上に努めている。	
			(外部評価) 運営推進会議は民生委員、市担当者、地域包括支援セ ンター職員等の参加を得て開催している。会議は事業 所の現状報告だけでなく、課題や利用者について話し 合い意見交換をしている。また、事業所の様子を知っ てもらうために行事や避難訓練と一緒に開催する工夫 をしており、事業所内での利用者の暮らしや雰囲気を知 ってもらう機会としている。会議で出された意見はサ ービス向上に具体的に活かしている。	運営推進会議は参加者が固定化しているため、地域住 民や多方面への呼びかけをさらに行い、地域に密着し た充実した会議になることを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 支援センターや市の担当者とは良い関係が築けるよう に努力している。	
			(外部評価) 運営推進会議は市担当者が参加しており、事業所の現 状や課題の報告、意見交換をしている。日頃から利用 者についての相談や連絡を取り、協力関係を築いてい る。また、地域包括支援センター主催の地区のグルー プホームの交流会が年4回開催され参加するなど、関 わりも深く積極的に連携を取っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束について職員は理解を深めるように勉強して おり、利用者の安全を考えながら、家族と相談しなが ら出来るだけ拘束しないケアを実践している。	
			(外部評価) 身体拘束にあたる行為や弊害については勉強会を行い 職員全員が理解して支援している。ユニットの出入り 口は安全面の配慮から暗証番号式のロックとなってい る。夜間の転倒防止のためベッド柵を使用している利 用者には、家族に説明を行い同意をもらっている。 ベッド柵の使用が常態化しないように経過観察を行っ ている。また、日頃から言葉で利用者の行動を抑制し ないように、職員同士で注意し合いながら対応してい る。利用者に声かけや気持ちに寄り添うなどの対応を しながら見守っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 勉強会や研修で虐待防止について学んでおり、見過ごさないように防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 必要性があれば関係者とよく話し合い支援できるようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約を結ぶ前には十分に理解・納得出来るように時間をかけ説明している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者や家族の意見は日々聞けるように努めている。 (外部評価) 意見箱を設置して、利用者や家族の意見を伝えることができるようにしている。訪問時に担当職員から家族に利用者の様子を伝え、意見や要望が言いやすいように工夫をしている。あまり訪問できない家族には、利用者の事業所での写真や手紙を送付したり、電話連絡を行い意見を聞くようにしている。家族や利用者から出された意見や要望はすぐに対応し、職員全員が把握している。苦情については職員全員で話し合い、前向きに受け止めサービス向上に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員会等で意見・提案を聞く機会を設け出来る範囲で反映させている。 (外部評価) 管理者は現場にすることが多く、日頃から職員は意見や要望を伝えることができる。また、毎月の職員会や年2回の個人面談など職員の意見を聞く機会を設けており、職員が目標を持って生き生きと働くことができるよう努めている。職員から出された意見や要望を話し合い日々のケアに反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 出来る範囲で対応するようにしている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修や試験等は積極的に受講できるように配慮している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) グループホーム交流会などの参加し、サービスの質の向上に努めている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居される前には必ず面接を行い、家族・本人の要望や不安なことなど話し合う時間を設けている。安心して入居できるように心がけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等 が困っていること、不安なこと、要望等に 耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族の思いを受けとめ、協力し合ってケア出来るよう な関係を築けるように努力している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と 家族等が「その時」まず必要としている支 援を見極め、他のサービス利用も含めた対 応に努めている	(自己評価) 必要に応じた支援を出来るように対応している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築 いている	(自己評価) 生活の中に役割を見つけ共に、暮らしていくことの喜 びを感じてもらえるよう努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、 共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族への報告・連絡を密にし、相談し易い環境を整え 共に支えていけるように努力している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に 努めている	(自己評価) 家族・本人の要望に応えるように支援しているが、レ ベル低下に伴い難しくなっている。 (外部評価) 馴染みの場所や人間関係は家族や利用者から聞き取り 把握している。利用者の希望により自宅など馴染みの 場所に、家族の協力を得て行けるように支援してい る。利用者の重度化等により、馴染みの関係が途切れ ないようはがきでの連絡などで支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士関わりが持てるように支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 必要に応じた支援を出来るように対応している。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者本位になるように、支援しており全職員が共通認識でケア出来るように努めている。 (外部評価) 思いや意向の把握が困難な利用者も多いが、表情や行動、今までの生活習慣などから把握するように努めている。職員は利用者と1対1となる入浴時や居室でゆっくり話を聞くことで、思いや意向を把握するように努めており、知り得た情報は職員全員で共有している。利用者一人ひとりの思いや意向について、職員は日頃から関心を持ち、希望に沿えるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 家族からの情報を基に把握出来るようにしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々状況が違うため、全職員が把握出来るように記録を密にしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 定期的にケアカンファレンスを行い、急なレベル低下にもすぐ対応出来るようにしている。	
			(外部評価) 管理者は家族と利用者の意見をもとに職員間で話し合い、意見が反映された介護計画を作成している。3か月に1回のモニタリングを行うほか、利用者の変化があった場合はその都度計画の見直しを行い、現状に則した介護計画になるよう努めている。職員は介護計画の課題や目標、実施内容を意識して日々のケアに取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 全職員で情報を共有出来るように、個別記録を活用し、見直しに役立てている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 出来る範囲で対応するようにしている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 楽しむことが出来るように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 利用者の負担や家族の要望により、往診診療を取り入 れ適切に医療を受けれるように努めている。	
			(外部評価) 利用者や家族が希望する医療機関を家族の協力を得て 受診することができる。利用者が受診する場合は、事 業所は利用者の様子を書面で病院に情報提供してお り、病院と家族、事業所の連携が適切に取れるよう努 めている。また、協力医の往診が月2回あり健康管理 をしている。協力医のほかに複数の医療機関と協力体 制を構築している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 日々の体調の変化や気づきは個人ファイルに記録し、 申し送り・相談もしている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 病院関係者とは常に情報交換・相談を行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化した場合や終末期については、家族と話し合い 出来る範囲の説明をし理解してもらうように努めてい る。	
			(外部評価) 今までに4名の看取りを経験しており、現在医師や看 護師と協力しながら1名の看取り支援をしている。入 居時に事業所としての方針やできることを利用者や家 族に説明し、意向を確認している。利用者の状態の変 化があった時にはその都度話し合いを持ち、確認して いる。管理者は普段から終末期のあり方や看取りにつ いての話を職員にしており、職員間での意識統一を 図っている。	管理者と職員は普段から終末期や看取りについて、精 神面での不安など対応を話し合っているが、新しい職 員は看取りの経験がないため、実際の場面で家族や利 用者に不安を与えないよう勉強会などを行い、不安を 取り除きながら家族や利用者にとって満足のいく終末 期となるように事業所全体で取り組んでいくことを期 待したい。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 全職員は冷静かつ的確に対応出来るように日々研鑽している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 災害対策については、消防署の指導の下定期的に行っており、日々職員間でも話合っている。 (外部評価) 年2回避難訓練を実施しており、民生委員も参加し消防署からの指導を受けている。訓練は夜間を想定して行ったり、非常口からの具体的な避難方法を実施するなど、いざという時にあわてず確実な避難ができるように取り組んでいる。地域の他施設と避難場所などについて話し合っており、連携が取れるように体制を整えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者の人格を尊重した声掛けや対応するように心がけている。 (外部評価) 入浴介助や排泄介助など普段から利用者の誇りや尊厳を傷つけないよう配慮して、声かけや対応をしている。気がついたことは職員同士で注意し合ったり、話し合いをするなどして利用者一人ひとりの人格を尊重した対応ができるよう職員全員で取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 出来るだけ自己決定出来るように支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 出来るだけ本人のペースで過ごせるように配慮している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 本人の好みに合わせて出来るだけ支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事の準備や片づけを一緒にしたり、食べたい物をリクエストしてもらったりして食事を楽しむように工夫している。 (外部評価) 利用者は食事の片づけや下ごしらえなど一人ひとりの力を活かしながらできることを手伝っている。献立は職員が立てており、利用者の希望を聞いたり行事食や季節のメニューを取り入れたりするなど食事が楽しめるように工夫している。職員と利用者は同じテーブルで会話をしながら和やかな食事の時間を過ごしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 出来るだけ栄養バランスを考え、水分量も摂れる工夫をしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後口腔ケアを全利用者にしてもらうように促し、出来ない利用者は職員が行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 利用者に合った声掛け・トイレ誘導・オムツ交換をしている。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりの排泄の時間帯や傾向を把握している。トイレ誘導時間を見直したり食事や水分量にも配慮するなど職員間で話し合い、利用者が自立してトイレで排泄できるよう検討している。トイレで気持ち良く排泄できるように、利用者一人ひとりのその日の状態を観察し生活リズムに合った支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 食事の工夫や水分量確保・ジュース寒天などで予防している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 利用者に合った支援を心がけているが、入浴困難者もあり、清拭で対応している。	
			(外部評価) 週3回程度利用者は入浴する場合が多く、希望があれば毎日入浴することができる。シャンプー類は利用者一人ひとり好みのものを使用したり、足湯を行うなど入浴を楽しめるように努めている。入浴が苦手な利用者には無理強いせず、利用者の状態によって声かけや対応を工夫し、気持ち良く入浴ができるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) ホームの時間割ではなく、利用者各自の体調や意思を尊重したケアを心がけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 各職員は処方箋等で勉強しており、変化が生じた場合も主治医に相談したりして対応している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者の出来る範囲を見極めそれぞれの希望を確認しながら、無理のない程度で生活を楽しめるように支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 出来る範囲で対応するようにしている。	
			(外部評価) 事業所の周辺は大型スーパーや飲食店が多く、食材の買い出しに利用者と一緒に外出したり、利用者の希望で職員と2人でゆっくり買い物を楽しむことができるように支援している。利用者の身体レベルの低下などからあまり外出したがない利用者もいるが、事業所から一歩外へ出て外気を吸うことで気分転換を図ったり、季節を感じたりできるように努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 職員と一緒にスーパーなどに行って、お金を使えるように支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者本人の希望により電話等は支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節感や生活感を取り入れ、落ち着いて過ごせるように配慮している。 (外部評価) リビングには畳のコーナーがあり、思い思いの場所で自由にくつろぐことができる。夏にはエアコンの風が利用者に直接当たらないように工夫し、冷えすぎないように配慮している。壁には外出や行事の時の写真や、職員の撮影した花の写真が飾られており、季節感を採りいれ家庭的な雰囲気になるように努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 利用者各自がリラックスできるよう工夫している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 本人の好みや家族と相談しながら、居心地の良い部屋にするよう努力している。 (外部評価) 居室にはベッドとエアコン、大きめの収納が備え付けられている。利用者は使い慣れた家具や馴染みの物品などを持ち込むことができ、落ち着きのある空間となるように工夫されている。家族の写真や位牌なども置き、居心地良く過ごすことができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 利用者の自立を妨げないように工夫している。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870105271
法人名	株式会社アクト企画
事業所名	グループホーム元気家
所在地	松山市福音寺町615-5
自己評価作成日	平成25年6月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 25年 7月 12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の思いを大切にして、家族と相談しながら、日々の生活を楽しんでもらえるように支援しています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設8年目を迎えた事業所で、地域の一員として地域での清掃活動や行事などに参加し、日常的に地域住民と交流している。利用者の重度化が進み、一人ひとりの気持ちに寄り添い、思いを大切にしながら穏やかに毎日が過ごせるように職員全員が取り組んでいる。周辺の事業所と勉強会や交流会での関わりが多く、課題の相談や情報交換を行うなど協力関係を築いている。開設当初からの職員もいるが新しい職員も多いため、管理者や勤務年数の長い職員は新しい職員の育成に力を入れ、明るい雰囲気とチームワークでケアを行い、サービス向上に繋がるように努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

Ⅰ.理念に基づく運営

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名

グループホーム元気家

(ユニット名)

大地

記入者(管理者)

氏 名

八雲 美恵子

評価完了日

25 年 6 月 19 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 利用者一人一人の思いを大切に、地域との信頼関係を築いていくように努力している。	
			(外部評価) 会社が掲げる理念のほか、事業所独自の理念を職員全員で話し合い作成している。「利用者一人ひとりの思いを大切に利用者や地域住民、職員同士の信頼関係を構築していく」という理念を事業所内に掲示しており、職員全員で話し合いながら日々のケアに繋げている。また、毎月の職員会では、ユニット毎に話し合いを行い目標をたて、具体的なケアについて意識の統一を図っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 町内行事や地域清掃に参加したりして地域との交流をしている。	
			(外部評価) 地域の町内会に入っており、日頃から道路や公民館の清掃に職員と利用者が一緒に参加している。夏祭りや秋祭りなどの地域行事は利用者の楽しみの一つとなっている。事業所の周辺は住宅が多く、散歩時に地域住民と会話をしたり、野菜のおすそ分けをいただくなどふれあう機会が多く、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 民政委員や地域の人々からの相談には積極的に支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) ホームでの取り組みや状況報告をし、意見交換を行い サービス向上に努めている。	
			(外部評価) 運営推進会議は民生委員、市担当者、地域包括支援セ ンター職員等の参加を得て開催している。会議は事業 所の現状報告だけでなく、課題や利用者について話し 合い意見交換をしている。また、事業所の様子を知っ てもらうために行事や避難訓練と一緒に開催する工夫 をしており、事業所内での利用者の暮らしや雰囲気を知 ってもらう機会としている。会議で出された意見はサ ービス向上に具体的に活かしている。	運営推進会議は参加者が固定化しているため、地域住 民や多方面への呼びかけをさらに行い、地域に密着し た充実した会議になることを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 支援センターや市の担当者とは良い関係が築けるよう に努力している。	
			(外部評価) 運営推進会議は市担当者が参加しており、事業所の現 状や課題の報告、意見交換をしている。日頃から利用 者についての相談や連絡を取り、協力関係を築いてい る。また、地域包括支援センター主催の地区のグルー プホームの交流会が年4回開催され参加するなど、関 わりも深く積極的に連携を取っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束について職員は理解を深めるように勉強して おり、利用者の安全を考えながら、家族と相談しなが ら出来るだけ拘束しないケアを実践している。	
			(外部評価) 身体拘束にあたる行為や弊害については勉強会を行い 職員全員が理解して支援している。ユニットの出入り 口は安全面の配慮から暗証番号式のロックとなってい る。夜間の転倒防止のためベッド柵を使用している利 用者には、家族に説明を行い同意をもらっている。 ベッド柵の使用が常態化しないように経過観察を行っ ている。また、日頃から言葉で利用者の行動を抑制し ないように、職員同士で注意し合いながら対応してい る。利用者に声かけや気持ちに寄り添うなどの対応を しながら見守っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 勉強会や研修で虐待防止について学んでおり、見過ごさないように防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 必要性があれば関係者とよく話し合い支援できるようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約を結ぶ前には十分に理解・納得出来るように時間をかけ説明している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者や家族の意見は日々聞けるように努めている。 (外部評価) 意見箱を設置して、利用者や家族の意見を伝えることができるようにしている。訪問時に担当職員から家族に利用者の様子を伝え、意見や要望が言いやすいように工夫をしている。あまり訪問できない家族には、利用者の事業所での写真や手紙を送付したり、電話連絡を行い意見を聞くようにしている。家族や利用者から出された意見や要望はすぐに対応し、職員全員が把握している。苦情については職員全員で話し合い、前向きに受け止めサービス向上に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員会等で意見・提案を聞く機会を設け出来る範囲で反映させている。 (外部評価) 管理者は現場にすることが多く、日頃から職員は意見や要望を伝えることができる。また、毎月の職員会や年2回の個人面談など職員の意見を聞く機会を設けており、職員が目標を持って生き生きと働くことができるよう努めている。職員から出された意見や要望を話し合い日々のケアに反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 出来る範囲で対応するようにしている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修や試験等は積極的に受講できるように配慮している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) グループホーム交流会などの参加し、サービスの質の向上に努めている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居される前には必ず面接を行い、家族・本人の要望や不安なことなど話し合う時間を設けている。安心して入居できるように心がけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等 が困っていること、不安なこと、要望等に 耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族の思いを受けとめ、協力し合ってケア出来るよう な関係を築けるように努力している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と 家族等が「その時」まず必要としている支 援を見極め、他のサービス利用も含めた対 応に努めている	(自己評価) 必要に応じた支援を出来るように対応している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築 いている	(自己評価) 生活の中に役割を見つけ共に、暮らしていくことの喜 びを感じてもらえるよう努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、 共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族への報告・連絡を密にし、相談し易い環境を整え 共に支えていけるように努力している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に 努めている	(自己評価) 家族・本人の要望に応えるように支援しているが、レ ベル低下に伴い難しくなっている。 (外部評価) 馴染みの場所や人間関係は家族や利用者から聞き取り 把握している。利用者の希望により自宅など馴染みの 場所に、家族の協力を得て行けるように支援してい る。利用者の重度化等により、馴染みの関係が途切れ ないようはがきでの連絡などで支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士関わりが持てるように支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 必要に応じた支援を出来るように対応している。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者本位になるように、支援しており全職員が共通認識でケア出来るように努めている。 (外部評価) 思いや意向の把握が困難な利用者も多いが、表情や行動、今までの生活習慣などから把握するように努めている。職員は利用者と1対1となる入浴時や居室でゆっくり話を聞くことで、思いや意向を把握するように努めており、知り得た情報は職員全員で共有している。利用者一人ひとりの思いや意向について、職員は日頃から関心を持ち、希望に沿えるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 家族からの情報を基に把握出来るようにしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々状況が違うため、全職員が把握出来るように記録を密にしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 定期的にケアカンファレンスを行い、急なレベル低下にもすぐ対応出来るようにしている。	
			(外部評価) 管理者は家族と利用者の意見をもとに職員間で話し合い、意見が反映された介護計画を作成している。3か月に1回のモニタリングを行うほか、利用者の変化があった場合はその都度計画の見直しを行い、現状に則した介護計画になるよう努めている。職員は介護計画の課題や目標、実施内容を意識して日々のケアに取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 全職員で情報を共有出来るように、個別記録を活用し、見直しに役立てている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 出来る範囲で対応するようにしている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 楽しむことが出来るように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 利用者の負担や家族の要望により、往診診療を取り入 れ適切に医療を受けれるように努めている。	
			(外部評価) 利用者や家族が希望する医療機関を家族の協力を得て 受診することができる。利用者が受診する場合は、事 業所は利用者の様子を書面で病院に情報提供してお り、病院と家族、事業所の連携が適切に取れるよう努 めている。また、協力医の往診が月2回あり健康管理 をしている。協力医のほかに複数の医療機関と協力体 制を構築している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 日々の体調の変化や気づきは個人ファイルに記録し、 申し送り・相談もしている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 病院関係者とは常に情報交換・相談を行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化した場合や終末期については、家族と話し合い 出来る範囲の説明をし理解してもらうように努めてい る。	
			(外部評価) 今までに4名の看取りを経験しており、現在医師や看 護師と協力しながら1名の看取り支援をしている。入 居時に事業所としての方針やできることを利用者や家 族に説明し、意向を確認している。利用者の状態の変 化があった時にはその都度話し合いを持ち、確認して いる。管理者は普段から終末期のあり方や看取りにつ いての話を職員にしており、職員間での意識統一を 図っている。	管理者と職員は普段から終末期や看取りについて、精 神面での不安など対応を話し合っているが、新しい職 員は看取りの経験がないため、実際の場面で家族や利 用者に不安を与えないよう勉強会などを行い、不安を 取り除きながら家族や利用者にとって満足のいく終末 期となるように事業所全体で取り組んでいくことを期 待したい。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 全職員は冷静かつ的確に対応出来るように日々研鑽している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 災害対策については、消防署の指導の下定期的に行っており、日々職員間でも話合っている。 (外部評価) 年2回避難訓練を実施しており、民生委員も参加し消防署からの指導を受けている。訓練は夜間を想定して行ったり、非常口からの具体的な避難方法を実施するなど、いざという時にあわてず確実な避難ができるように取り組んでいる。地域の他施設と避難場所などについて話し合っており、連携が取れるように体制を整えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者の人格を尊重した声掛けや対応するように心がけている。 (外部評価) 入浴介助や排泄介助など普段から利用者の誇りや尊厳を傷つけないよう配慮して、声かけや対応をしている。気がついたことは職員同士で注意し合ったり、話し合いをするなどして利用者一人ひとりの人格を尊重した対応ができるよう職員全員で取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 出来るだけ自己決定出来るように支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 出来るだけ本人のペースで過ごせるように配慮している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 本人の好みに合わせて出来るだけ支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事の準備や片づけを一緒にしたり、食べたい物をリクエストしてもらったりして食事を楽しむように工夫している。	
			(外部評価) 利用者は食事の片づけや下ごしらえなど一人ひとりの力を活かしながらできることを手伝っている。献立は職員が立てており、利用者の希望を聞いたり行事食や季節のメニューを取り入れたりするなど食事が楽しめるように工夫している。職員と利用者は同じテーブルで会話をしながら和やかな食事の時間を過ごしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 出来るだけ栄養バランスを考え、水分量も摂れる工夫をしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後口腔ケアを全利用者にしてもらうように促し、出来ない利用者は職員が行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 利用者に合った声掛け・トイレ誘導・オムツ交換をしている。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりの排泄の時間帯や傾向を把握している。トイレ誘導時間を見直したり食事や水分量にも配慮するなど職員間で話し合い、利用者が自立してトイレで排泄できるよう検討している。トイレで気持ち良く排泄できるように、利用者一人ひとりのその日の状態を観察し生活リズムに合った支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 食事の工夫や水分量確保・ジュース寒天などで予防している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 利用者に合った支援を心がけているが、入浴困難者もあり、清拭で対応している。	
			(外部評価) 週3回程度利用者は入浴する場合が多く、希望があれば毎日入浴することができる。シャンプー類は利用者一人ひとり好みのものを使用したり、足湯を行うなど入浴を楽しめるように努めている。入浴が苦手な利用者には無理強いせず、利用者の状態によって声かけや対応を工夫し、気持ち良く入浴ができるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) ホームの時間割ではなく、利用者各自の体調や意思を尊重したケアを心がけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 各職員は処方箋等で勉強しており、変化が生じた場合も主治医に相談したりして対応している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者の出来る範囲を見極めそれぞれの希望を確認しながら、無理のない程度で生活を楽しめるように支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 出来る範囲で対応するようにしている。 (外部評価) 事業所の周辺は大型スーパーや飲食店が多く、食材の買い出しに利用者と一緒に外出したり、利用者の希望で職員と2人でゆっくり買い物を楽しむことができるように支援している。利用者の身体レベルの低下などからあまり外出したがない利用者もいるが、事業所から一歩外へ出て外気を吸うことで気分転換を図ったり、季節を感じたりできるように努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 職員と一緒にスーパーなどに行って、お金を使えるように支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者本人の希望により電話等は支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節感や生活感を取り入れ、落ち着いて過ごせるように配慮している。 (外部評価) リビングには畳のコーナーがあり、思い思いの場所で自由にくつろぐことができる。夏にはエアコンの風が利用者に直接当たらないように工夫し、冷えすぎないように配慮している。壁には外出や行事の時の写真や、職員の撮影した花の写真が飾られており、季節感を採りいれ家庭的な雰囲気になるように努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 利用者各自がリラックスできるよう工夫している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 本人の好みや家族と相談しながら、居心地の良い部屋にするよう努力している。 (外部評価) 居室にはベッドとエアコン、大きめの収納が備え付けられている。利用者は使い慣れた家具や馴染みの物品などを持ち込むことができ、落ち着きのある空間となるように工夫されている。家族の写真や位牌なども置き、居心地良く過ごすことができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 利用者の自立を妨げないように工夫している。	